

6月29日 水無月

旧暦で6月を水無月という。現在の感覚からすると梅雨の時期に「水無月」とは不思議な感じがするが、旧暦（太陰暦）でいう6月は夏の終わり。1月1日が春の初めと考えると、季節がわかりやすい。

理科のA先生が、「校長先生。明日食べるお菓子って知ってますか」と唐突に尋ねてきた。私がなぞなぞか何かだと思い、応えあぐねていると、「京都には6月30日にだけ食べる“水無月”っていうお菓子があるんです」と教えてくれた。

京都の神社では6月の末に、半年間の罪や穢れを払う「夏越の祓（なごしのはらえ）」という伝統行事が行われる。平安時代、貴族はこの時期に氷を食べて暑気払いをしていたそう。しかし、庶民にとって氷は超高級品。そこで、三角形の外郎(ういろう)を氷に見立て、その上に小豆をのせて食べた。それが「水無月」というお菓子である。

「最近はスーパーでも売ってますよ」とA先生が教えてくれた。私の中にたまりにたまった罪穢れを感じたのだろうか。どうしても食べさせたいみたいである。

